

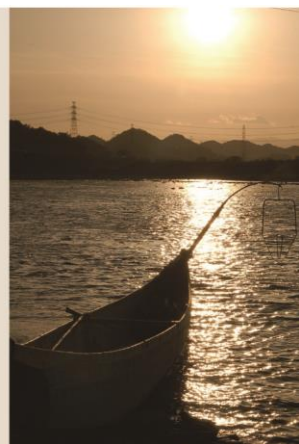


Rotary 

関ロータークラブ

2019-20 年度国際ローターテーマ RI 会長 マーク・ダニエル・マローニー
『ローター：ローターは世界をつなぐ ROTARY: ROTARY CONNECTS THE WORLD』
2019-20 年度 関ロータークラブ会長 テーマ
～私ができる社会貢献をしよう～ 54 代会長 土屋佳久

■ 会長 土屋佳久 ■ 副会長 木村 聡 ■ 幹事 尾崎嘉彦
白田龍司



本日のプログラム 第 2553 回例会 2019 年 8 月 25 日(日)



納涼例会 アサヒビール工場見学とナゴヤドーム

中日×広島 観戦



前例会の記録・第 2552 回 8 月 23 日(金)12:30

「ガバナー公式訪問 3 クラブ合同例会」
国際ロータータリー第 2630 地区
ガバナー 辻正敏様

◆ ビジター紹介

地区代表幹事 井熊信行様
地区大会実行委員長 西村昭彦様
ガバナー補佐 深瀬清様

◆ 開会点鐘

◆ 「君が代」「奉仕の理想」斉唱

◆ 美濃ロータークラブ会長挨拶



こんにちは、まずもって、本日は辻ガバナーをはじめ、先ほど紹介されました地区関係者の皆様には公式訪問に美濃の地に来て頂きありがとうございます。私は 3 クラブ、関 RC・関中央 RC・美濃 RC を代表して挨拶させていただきます。美濃クラブ会長の市原孝雄と申します。

さて、関市・美濃市は世界遺産の宝庫です。まず、清流長良川は美濃市・関市を流れる世界農業遺産です。また、曾代用水は、世界かんがい施設として世界遺産に認定されており美濃市から関市に流れています。そして美濃和紙は手すきが世界遺産に認定され来年行われるオリンピックには表彰状に透かし入りで使われます。また、先月の『ローターの友卓話の泉』には、長良川の鵜飼が掲載されております。関市には 1000 年を超える歴史を持つ小瀬鵜飼が有ります。

さて、今年度の RI 会長のテーマは『ローターは世界を繋ぐ』で有り、辻ガバナーの 2630 地区テーマは『総天然色』です。この言葉には何かキラキラした響きが有ります。7 月号ローターの友『ガバナーの横顔』に辻ガバナーの紹介記事が有ります。39 年間ローターを皆出席した事とか 1990 年には津ローターで幹事をやりながら

青年会議所の理事長をされたことは正に恐るべき事です。そしてガバナーの良い人柄がいっぱい掲載されています。その様なガバナーを地区に頂いている事は、我々の誇りです。そんな中、関市・美濃市は歴史と文化と世界遺産の宝庫です。私たち三クラブはその地にあった事業に取り組みローターの花を咲かせて参りたいと思います。

最後に、今日のご指導ご鞭撻のほど よろしくお願いたします。

◆ 委員会報告

◎出席委員会 委員 林昇

会員 50 名中 出席 19 名 出席率 39.59%

◎ニコボックス委員会 委員 古田貴巳

出席者全員・・・国際ローター第 2630 地区ガバナー 辻正敏様、地区代表幹事 井熊信行様、地区大会実行委員長 西村昭彦様、東海北陸道グループ ガバナー補佐 深瀬清様、お忙しい中、3 クラブ合同例会にお越しいただきましてありがとうございます。皆様のご来訪を楽しみにしておりました。また、合同例会ホストの美濃ロータークラブ様、会場の準備など大変お世話になりました。

◆ 国際ロータータリー第 2630 地区

ガバナー 辻正敏様



2019-20 年度国際ロータリー会長のマローニーさんは Rotary Connects The World (ロータリーは世界をつなぐ) を テーマとしました。これは今年 1 月にサンディエゴで行われた国際協議会で発表されました。私たち第 2630 地区のテーマは、ガバナーエレクト帰国報告会で発表した「総天然色」です。なかなかいいテーマだとガバナーは言っています。会長のマローニーさんは、国際協議会の際、前年度の会員減少が過去にない大きなものだったことに触れ、増強や退会防止の大切さを述べられると共に、その方法にも大きく踏み込んで話をされました。よほど衝撃的なことだったので。私たちの日本はまだ元には戻っていませんが、激しい会員減少が止まり始め、増加に転じてきているところでしたので、世界の会員数が激しく減少しているなど思わぬことでした。そこで最初の強調事項。それはロータリー自身の成長だと訴えられました。それをマローニーさんは、「Grow Rotary」と表現しました。彼の表現は、「穴の開いたバケツにいくら水を入れても抜けていくばかり。それが今のロータリーではないか」と。そしてロータリーを成長させなければならぬと言います。ロータリーというバケツをきちんと修復する。あるいは今の時代に合った新しいものに変える必要があります。会員減少は組織としては大変な問題です。彼は続けます。職業分類を強化して会員を増やし、新しいクラブを作らなくてはならない。そして子供たちや若い人たちを大切にしなければいけません。ロータリーのリーダーシップの道をもっと歩きやすくしなければなりません。増強や拡大の前に行くべきことは、ロータリーの成長です。仕事をしながらロータリーが出来なければいけない。家族、仕事、ロータリーのバランスを考えなくてはならないと言っています。Grow Rotary は単に会員を増やそう、組織を大きくしようと言っているのではなく、きちんと続いていくように (持続性)、成長していきましょうと言っています。公共イメージの向上やロータリーの認知度向上もその一つです。先ほども大切にしなければいけないと話した、子供たちや若い人たち。彼らとの結びつき・つながりの大切さです。今年の国際協議会に初めてローターアクトたちが正式に招かれました。世界で 60 名。日本から 3 名。私は日本からのローターアクトに質問しました。「どうしてローターアクトに入ったの」。予期せぬ答えでした。その答えは「奉仕がしたかったからです。」と明確でした。私は驚きました。私は彼らの年の頃、「奉仕がしたい」と思ったのでしょうか。私は思いませんでした。皆さんは思われたのでしょうか。その

当時の私の感覚は、今話しているローターアクトとは遠く離れているように思います。しかしこうして言葉を交わし話し合っていくうちに、若い彼らと私たちの思いは、どこかで交わるかもしれません。どんどん話をすることが大切です。青少年プログラムはロータリーにとって避けては通れないものです。今触れたローターアクトの他にもインターアクト、青少年交換等があります。いろいろなハラスメントや最近多く発生する災害時対応など様々な問題も起こっているようです。しかし私たちは諸問題を真正面で受け止め、諸問題への認識を深め、対応力を十分持って取り組まなければなりません。このような表現があります。船は港に居れば安全です。乗員を乗せて港を出て航海に出れば、静かな風の日もあるでしょう。しかし荒れ狂う嵐に遭遇することもあります。そのような時にどうすればよいか、常に十分な知識を持って起こり得ることに適切な対応して乗員を守らなければなりません。そして目的の港についた時、その船は多くの人たちの素晴らしい喝采で迎え入れられるでしょう。この船がロータリーです。ちょっと難しい話になりますが、ロータリーの定義といってもよいとされています。ロータリーの中核的価値観というものがあります。奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップの 5 つです。これが昨年の国際協議会で「ビジョン声明」として出されました。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」という声明です。それを受けて、目的を達成するための戦略計画があります。「より大きなインパクト」、「参加者の基盤拡張」、「参加者の積極的なかわり」、そして「適応力を高める」です。2017-18 年度 Make a Difference (変化をもたらす)、2018-19 年度 Be The Inspiration (インスピレーションになろう)、そして本年度 2019-20 年度は「ロータリーは世界をつなぐ」です。「変化とは何?」と考えて時間が経ち、「インスピレーション」と言われて驚きました。そのような中、「あっ、こんなのはどうだろう」と思い付き。そうしたら「そのような思いや考えを持った人が手を取り合っていくましよう」と考えたら、まさに「ロータリーは世界をつなぐ」です。今年度のミッションは、「人びとが手を取り合って行動しよう」です。簡単に言えば、この 2017-18 年度からのテーマ、これが戦略計画だと考えても良いのではないのでしょうか。では具体的にはどうしましょうか。「人々が手を取り合う」ために、まずクラブや地区のリーダーが率先して積極的に参加す

る。会員の維持と新しい会員の増強。出来ればローターアクターや40歳未満の若い会員、女性会員の増強。新しいクラブを作るのもいいでしょう。それとロータリーと関わっている若い人たち、インターアクト、ローターアクトとのロータリークラブ会員間の相互の積極的な参加・協力。地元のJCや商工会議所青年部との交流などもいいですね。「行動する」とは、例えばポリオ。ポリオ根絶活動でのロータリーが果たしている役割をはじめとしてロータリーが取り組んでいることを伝えましょう。R財団補助金を活用してのプロジェクトを増やすと共にR財団への年次基金、ポリオプラス、恒久基金への寄付の増進。「世界を変える行動人」キャンペーンの促進などでしょうか。これは新しいグローバル広告キャンペーンで、ガイドラインはありますが、クラブや地区でカスタマイズできます。一度ウェブサイトのブランドリソースセンターにアクセスしてみてください。今年4月の規定審議会でメーキャップの話がありました。今まで例会の前後14日間だったメーキャップを、そのロータリー年度内にすればよいということです。いろいろ物議を醸していますが、年度内のメーキャップは最大期間で、今まで通りでよければそれぞれのクラブ細則で決める。例会の前後14日でも30日でも構わないわけで、あくまでクラブが決めれば良い訳です。どんな変化が訪れても中核的価値観やビジョン声明を忘れなければロータリーは変わりません。より皆さんが居心地の良いロータリーにするためにロータリーを成長させるのです。それには家族や若い人たちとのつながりを大切にして会員の基盤を強化しましょう。もう少しのところまで来ているポリオ根絶立ち上がりましょう。R財団が初めて寄付をしたのは1930年国際障害児協会への500ドルです。もっと言えばポリオに感染した子供たちをサポートする協会でした。ロータリーのポリオとの戦いは90年に及ぶと言っても良いでしょう。R財団の資金を活用して良い変化をもたらすための事業を行いましょう。そして寄付もしましょう。すべてロータリーの成長です。先日マローニー夫妻が来日されました。詳しく言うと、八戸、福島、東京・神奈川、そして名古屋にみえました。お隣の2760地区の名古屋での歓迎晩餐会に私も招かれて出席させていただきました。マローニーさんは7回？、奥様のゲイさんは5回来日されてみえるようです。マローニーさんは国際大会大阪大会の準備委員も務められていたそうです。9月からは行事が沢山あり行き先が限定される。7月8月なら自分たちが行き先を決められるので真っ先に日本に来たと夫妻は言ってみえました。その際こんな話

をされました。マローニーさんのホームクラブであるアラバマ州ジーケーターRCが1992年、青少年交換で日本の女子高校生をホストしました。ヨウコさんです。マローニーさんはヨウコさんを預かりました。ヨウコさんは奥様のゲイさんが卒業した高校に通い、ヨウコさんを通じてヨウコさんの家族との家族ぐるみの付き合いが始まりました。留学期間が終わりました。1999年、マローニーさんが来日された時、ヨウコさんに連絡しました。しかしヨウコさんは亡くなっていました。この話をされる時、マローニーさんの目は潤んでいました。そして私が出席させていただいた晩餐会にヨウコさんのお母さんと呼んで欲しいと言われたようです。ヨウコさんの死は辛いことですが、晩餐会での再会はとても素敵なものでした。そして翌日奥様のゲイさんはヨウコさんのお墓参りに行かれたそうです。暖かいマローニーさんが、そしてゲイさんが私たちの年度の代表で良かったと感じました。この出会いは大切にしたいと思っています。さあ、いよいよクラブがロータリーの理念に基づき、自由に主導権を持ってロータリー活動をする時が来たようです。みなさんの家族が、事業所が、そしてクラブが生き活きとロータリーを楽しまれ、この地区に居るロータリアンとロータリークラブの数だけ人間味あふれる素敵な花を咲かせ、総天然色の2630地区を作りましょう。



次例会のご案内 8月31日(日) 8:30
「第20回高木守道杯関市中学校
軟式野球リーグ戦開会式」
於：十六所グランド東

例会：毎週火曜日 12:30

例会場：関市本町6-20 大垣共立銀行関支店 2F

事務局：関市平和通7-10-25 アメリア 2F